

YAHOO や Google などから audacity を検索し、公開している本家サイトを見つける。本家のサイトはアメリカにあり、もともとは全て英語表示だったが、現在は日本語環境からアクセスすると、日本語で表示 (全てではないが) できるようになっている。

目的のファイルは

- audacity-win-unicode-xxxx.zip または、audacity-win-unicode-xxxx.exe、あるいはその両方。違いは後述。
- LADSPA-plugins-win-xxx.exe
- lame\_v xxxx\_for\_Audacity\_on\_Windows.exe
- FFmpeg\_2009\_07\_20\_for\_Audacity\_on\_Windows.zip  
(注、xxxx はバージョン番号、FFmpeg ではバージョン番号のかわりに日付が付く)  
(注2 それぞれ多くのバージョンがあり、最新の audacity には最新の lame や FFmpeg を使用しなければならない。)

であるが、最低限 audacity-win-unicode-xxxx.zip はダウンロードしよう。他の入門者ガイドでは audacity-win-unicode-xxxx.exe を推奨しているが、当ガイドでは ZIP 版 (非インストール版) を推奨する。

この二つの audacity の違いは、前者がインストール不要版、後者が通常インストール版で、前者はプログラム本体をコンピュータ上の何処においても動作が可能 (USB メモリーに入れて持ち歩くこともできる) で、後者はコンピュータの C:(Windows) の \Program Files というシステム領域へ組み込むタイプだ。

このテキストでインストール不要版を推奨している理由はいくつかあるが、

- 1) audacity は比較的小さなプログラムで、どこでも作業可能な身軽さを持つこと
- 2) インストールした場合、稀に他の特定 DAW の動作に影響を与える場合があるためというのがその根拠だ。

しかし動作安定性は通常インストール版の方がより高いという意見もあり、インストール不要版で動作が芳しくない場合、通常のインストールを試してみるべきだろう。

ダウンロードしたファイルはどちらもおよそ 140 程度のファイルを圧縮し束ねたもので、どちらもダブルクリックすることで、本来のファイルに解凍復元される。前者は使用者が指定するフォルダ内に、後者は C: の特定の場所に展開される。

後者の場合インストーラーが起動し、いくつかの質問がなされるが、内容に同意すると、自動的に登録とショートカットが作成される。

前者の場合、ダブルクリックすると使用者が指定したところ (例えばデスクトップ) にフォルダが自動作成され、その中にファイルが解凍されているはずだ。前者の場合、「Audacity 1.3 Beta (Unicode)」というフォルダが作成されるが、そのフォルダをダブルクリックすると、中に「audacity.exe」というファイルがある。

このファイルが audacity のメインプログラムで、起動するにはこのファイルをダブルクリックすればよいのだが、このプログラムと、その他の附属ファイルのフォルダ位置が変化すると正常に動作できなくなるので、もしこの audacity を USB メモリーに入れて持ち運んだりする場合には「Audacity 1.3 Beta (Unicode)」フォルダごと移動する必要

がある。

また起動するのにメインプログラムをダブルクリックするのもあまり「カッコよくない」(実際には危険がある)ので、メインプログラム上で右クリックすると「ショートカットの作成」があるので、作成し、そのショートカットをデスクトップにでも置いておけば、起動が楽になる。

\*この項の冒頭に書いたように、LADSPA、lame、FFmpeg、をダウンロードし組み込めばそれぞれ、拡張プラグイン、MP3書き出し、各種拡張圧縮ファイル、に対応できるようになるが、ある程度本体の操作に慣れてからこれらを組み込む方が良いでしょう。

しかし、これらの拡張機能のプログラムは、**audacity** と連携の上組み立てられており、**audacity** のバージョンごとに適合する組み合わせがあり、一応上位互換性があるらしいが、**audacity** をダウンロードするときに、同時にこれらもダウンロードしておき、保存しておくことをお勧めする。なにせ無料なのだから！

\* **audacity** を USB メモリーなどに入れて、非インストールで使用する場合、使用中のセッティング (エフェクターやイコライゼーションのパラメータや各種の設定) が、使用した PC の中に残ってしまうのだが、少しの工夫でそれらすべてを USB メモリーに自動的に格納する設定にすることができる。**audacity** 一式が入ったフォルダ「Audacity 1.3 Beta (Unicode)」フォルダの中に、実行ファイルである「Audacity.exe」があるはずだが、同じフォルダに「portable settings」という名称のフォルダを作るだけで、その中にこれらのセッティングが自動格納されるようになる。簡単な作業なので、非インストールで使用するユーザーに強くお勧めする。